



2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

from 東北

ニュースレター

「第25号」

2016年9月14日

全国諸教会の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。東北のみならず全国で猛威を振るった台風の被害を覚えてお祈りいたします。今号では、震災直後から継続して受け入れている西南学院大学ボランティアチームとの活動をお届けします。

現地支援委員会・証し (イザヤ書 43:1~5)

西南学院大学のボランティアチームを仙台地区に迎えての最終日、南光台教会員の笠松絹子さんから放射能汚染関連のお話を伺った後に、今回のボランティア活動を通して感じたことを皆で話し合う時間が与えられました。

チームメンバーの一人、宇野豪人さんは長住教会のメンバーで、彼はこれまでいくつかのボランティア活動をする中で、どうして自分はボランティアをしているのかを考えているとのことでした。

これはまさに私が今回のボランティアチームのメンバー一人ひとりに尋ねたいことでしたし、自分自身も震災後の支援活動の中で考え続けていたことでもありました。

この問いについて確たる答えは出せないものの、現時点では「自分自身が愛されているから」という思いが与えられています。震災前年には妻が天に召され、そしてあの震災に遭い、震災直後には同僚の家

が津波で大破した為に泥かきの支援に当たり、その後、宮城チームのメンバーとして牡鹿支援に関わらせていただいておりますが、この悲しみ、苦しみの只中にあっても、振り返ってみると神様の愛の中に生かされているという安心感が与えられ、この力をいただきながら、この思いがあったからこそ支援活動を続けてこられたように思います。

奇しくも小田衛牧師はイザヤ書 43 章 1 節から 5 節をこの日の説教箇所を選び、私たちは神様から愛されている存在であるという説教をされました。その説教と私の思いを受けて、先に紹介した宇野さんは「自分もそのように思える」と感想を述べられました。

現地でのボランティア受け入れは年々対応が難しくなっているとの印象を受けていますが、学生たちがボランティアの意味を考える中で、自分も愛されている存在だということに気づき、神様との出会いが与えられることを祈りつつこの活動を続けていきたいと願っています。

(大富キリスト教会 伊東信吉)

2016年 西南学院大学ボランティア in 宮城

東日本大震災翌年から、宮城チームは西南学院大学ボランティアチームを受け入れており、今年は学生9名、職員2名の11名が8月25日(木)から29日(月)まで、宮城県の被災地を訪ねました。



荒井牧師と共に(後列左2人目)

初日は、震災直後、日本基督教団名取教会に就任し被災地支援活動を行っている荒井偉作牧師が、仙台空港、岩沼市、名取市の被災地を案内しました。名取市閑上地区は太平洋に面し被害の大きかった所で、港湾設備はかなり復旧しつつも、住宅地は今も6mほどの高上げ工事中です。名取教会で、教会の取り組みや津波で亡くなられた教会員が生前寄贈されたピアノを「いのちのピアノ」として礼拝で大切に使い、「いのち」を喜び大切にしたい教会の歩みを見せていただきました。また、仙台市で最も被害が大きかった荒浜地区を訪問し、新設防潮堤に立ち、津波が押し寄せてきた太平洋と、かつては1000世帯ほどの人たちが暮らしていたことを覆い隠してしまうほど夏草が生い茂っている様子を見ました。夜は、金丸真牧師から亘理の支援状況について説明を受けました。



牧浜にてカキ養殖作業



牧浜集会所にて豊島区長の手料理を楽しむ

二日目は、宮城県松島市と石巻市の被災地を訪ねました。東松島市は、高台移転住宅地が完成し、今は住宅、学校、商業施設が建設中です。JR野蒜駅は高台に移転し、旧駅舎は震災の記憶を語り継ぐ場所になり、松島の被災状況と復興に向かう記録映像を観ることができました。石巻市は震災被害が最も大きかった自治体で、たくさんの方が避難した日和山公園から、復興事業が進んでいる市街地や震災を記憶する公園として整備している門脇地区を廻りました。



野蒜駅(津波到達表示の下で)

午後、宮城チームが支援している牡鹿半島の牧浜区長、豊島富美志さんに、震災後避難所になった旧災害対策本部の前で、震災とその後の様子を語っていただきました。その後、復興途上のカキ養殖作業の手伝いをし、夜は地区の集会所で豊島さんの手料理をいただきながら交流会を持ち、そこに宿泊しました。豊島さんは来年1月、西南学院大学に招かれて被災体験を語る予定で、今回の交流は豊島さんと西南学院大学との出会いをさらに豊かすることでしょう。

三日目、宮城チームが毎月行って来た牡鹿支援活動に合流し、給分浜と牧浜でのお茶っこで地域の方々と交流の時を持ち、鮎川、黒崎地区の被災された方々に支援の野菜を届けました。荻浜と月浦にも支援の野菜を届け、荻浜では高台移転住宅として整地されたばかりのところ復興途上にある浜を背景に江刺みゆき区長と、月浦では高上げされた浜で相澤栄治区長の話をつかがい、しばし交流の時を持ちました。

四日目の日曜日は、大富教会と仙台教会に分かれて主日礼拝を守り交流を持ちました。午後は、震災当時仙台市若林区の消防署長として直後の救助作業を指揮した八巻正之さん(仙台教会員)から当時の様子を聞き、



分かち合いと懇談の時 大富教会にて

夜は大富教会で東北ヘルプ放射能計測所所員・笠松絹子さん(南光台教会員)から、東京電力福島第一原発事故から5年経っても放射能被害は継続している状況などの話をしていただき、懇談の時を持ちました。

最終日の朝、チームは大富教会を後にし、尚絅学院大学での交流会に参加、台風10号の影響が懸念される中、夕方の便で無事帰福しました。

東日本大震災から5年半経ち、「被災地」という言い方もそろそろ変えたいよね! そうだねえ! という会話も聞かれるようになってきましたが、まだまだ被災地は復興途上です。被災地を忘れないで、毎年ボランティアチームを派遣してくださる西南学院大学に感謝し、来年大学を訪れる豊島区長さんが守られ用いられるよう祈ります。(仙台教会 小河義伸)